

最近大雨が突然降りだすのよね。おかげですぐ濡れ。



1時間に何回の雨量って言われても分からないんだけど...

豪雨災害について



そうだよ。数字だけではわかりにくいから表にまとめてみたよ。

1時間の雨量	予報用語	人が受けるイメージ	人への影響	(木造家屋想定) 屋内での状況	屋外の様子	災害発生状況
10mm~20mm	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元が濡れる	雨の音で話し声がよく聞き取れない	地面一面に水たまりができる	側溝や下水、小さな川があふれ小規模のけがけ崩れが起きる
20mm~30mm	強い雨	としゃ降り	傘をさしても濡れる	寝ている人の半数くらいが雨に気づく	道路が川のようになる	山崩れ・けがけ崩れが起きやすくなり、危険地帯は零避難。都市では下水管から雨水があふれる
30mm~50mm	激しい雨	ハケツをむっくり返したような雨			水しぶきで辺り一面が白っぽくなり視界が悪くなる	都市部では地下や地下街に水が流れ込む可能性あり。マンホールから水が噴出、多くの災害が発生
50mm~80mm	非常に激しい雨	滝の様に降る	傘が全く役に立たない	寝ている人の半数くらいが雨に気づく	雨による大規模災害が発生	雨による大規模災害が発生
80mm以上	猛烈な雨	息苦しい嫌な圧迫感がある、恐怖を感じる				

内閣府：防災情報のページ

都会の川は1時間に50mmの雨量で氾濫を起こすと言われていたんだ



50mmから特に危険だと、目安しておきます。

土砂災害のおそれがある区域は全国に67万区域！

でも都心は関係ないんじゃない？



そうでもないんだよ。例えば品川区を例にすると...



50カ所が土砂災害警戒区域、38カ所が土砂災害特別警戒区域に指定されているんだ。

自分の街を調べてみよう！

<https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sabo/content/001406981.pdf>

国土交通省：全国における土砂災害区域等の指定状況

気象について防災情報を見て見よう！

<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

気象庁HP

突然のゲリラ豪雨！走行中編



- ・ 視界が悪くなる
- ・ 路面が滑りやすくなる
- ・ 冠水する場所が発生する
- ・ 洪水や土砂崩れに巻き込まれる可能性がある

1. 無理をしない（自分は大丈夫と過信しない）
2. 低い場所を避ける（普段から低地場所の認識を持つておく）
3. 川沿いは走らない
4. 崖のそばは走らない
5. 冠水路を避ける（やむを得ない場合はスピードを極力落とす）
6. 冠水量に注意する（車両床面を超えたら完全に走行不能になる）
7. 冠水した道で動けなくなる前に、**雨が来ても窓は全開にする**

すぐ濡れになるかと思うと7は、なかなか出来そうできないよね



でも車に閉じ込められたら命に危険が及ぶよ！エンジンが止まってからでは遅い！迷っちゃダメなんだ。

車が水没した！何をえば、窓ガラスは割れるのか？（JAF1-サーテスト）

テスト背景	車両水没時に窓が開かないことを想定し、車両にありそうなもの5点と脱出用ハンマー3点で窓が割れるかテストし、脱出方法として適切な道具か検証。
テスト内容	・ 車内にありそうなもので運転席サイドガラスを割ることができるかテスト ・ サイドガラスを割るのが一般的だが、合わせガラスのフロントガラスでもテスト実施

- ①ヘッドレスト
- ②小銭を入れたビニール袋
- ③スマートフォン
- ④ビニール傘（先はプラスチック）
- ⑤車のキー

検証結果

①～⑤は窓ガラスは割れなかった

フロントガラスは割れにくいことを知っておこう！



- ⑥脱出用ハンマー（ポンチタイプ）
- ⑦脱出用ハンマー（かなづちタイプ）
- ⑧脱出用ハンマー（小型ポンチタイプ）

⑥～⑧はどれも割れたが、**フロントガラスは割れなかった**



浸水を防ごう！

土のうならぬ、水のうを作ろう

ゴミ袋に半分程度の水を入れておけば水のうを作ることができます。トイレや風呂場、洗濯機の排水溝から水が上がってくることもあるので水のうを作って逆流を防ぎましょう。



いざ、避難しよう！

動きやすいことが第一！風雨を考えると頭上も危険ということなんだね！



服装と持ち物に注意する

- ・ レインコートは上下セパレートタイプが望ましい
- ・ 風も強いので、ヘルメットを身に着ける
- ・ 軍手（なければ手袋）をする
- ・ 長靴を履かずに、運動靴を履く



気を付けよう！

- ・ 冠水の恐れがある道は通らないようにしましょう
- ・ 地下、半地下は危険です、直ぐに脱出しよう
- ・ 道路では**ふたの外れたマンホール**に転落する恐れがあります



会社でも考えて起きたい災害対策

- ・ハザードマップで会社の地理をチェック
- ・拠点ごと会社で浸水しやすい場所のチェック
- ・浸水対策グッズを用意する（止水板・水のう）
- ・重要な機器やデータは高層階、または高い場所に安置・設置
- ・通行止めになりやすい道路を調べる
- ・従業員のケガに注意
- ・従業員へ避難場所の確認と周知
- ・保険を見直す（水害に対して）



浸水何センチ？

歩行が困難となる水深



ドアが開かなくなる水深



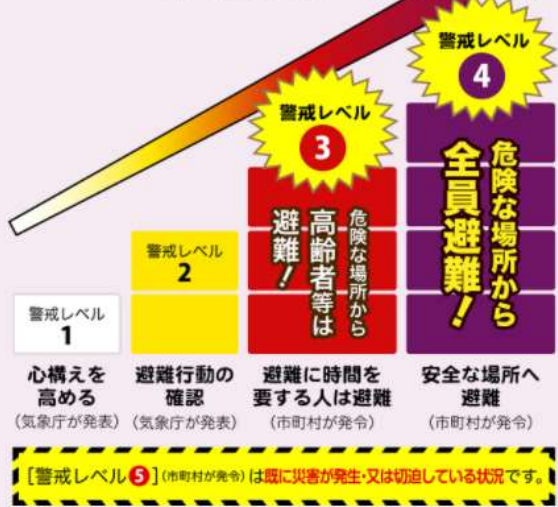
冠水しているところに
どんなものが流れてくるか
想像してみましょう！



冠水している道路は海や川とは
違う。色んなものが流れてきたり
沈んでいるから、危険がいっぱい
あるねえ。



災害発生の危険度



ハザードマップはこちら

<https://disaportal.gsi.go.jp/>

まずは、ハザードマップや市町村の発表などで
情報を確かめる必要があるのね。

そして状況によっては一旦とどまって安全確保も
重要になるんだ。この辺の判断は難しいけど、冠水
した道路は危険も多いからね。



次の3つが確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
(入っていると…)



流速が速いため、
木造家屋は倒壊する
おそれがあります

地面が削られ家屋は
建物ごと崩落する
おそれがあります

② 浸水深より居室は高い



③ 水がひくまで我慢でき、
水・食糧などの備えが十分

(十分じゃないと…)
水、食糧、薬等の確保が困難になる
ほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用
ができなくなるおそれがあります



※①家屋倒壊等氾濫想定区域や③水がひくまでの時間(浸水継続時間)はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住まいの市町村へお問い合わせください。なお、重ねるハザードマップには①及び③の記載はありません。

内閣府防災HP「避難情報に対するガイドラインの改定(令和3年度)」



- 「警戒レベル1」で、災害への心構えをする
- 「警戒レベル2」はハザードマップで避難経路を確認
- 「警戒レベル3」で高齢者を避難させる
- 「警戒レベル4」で全員避難

家でも会社でも
窓ガラス飛散防止フィルターを貼ったり
シャッターを付けたりするのもいいですね。

日頃から防災意識を高く
持つことが重要なんじゃ。

